

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第11回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



「良くする会」結成の目的は東労組からの革マル排除

06年8月3日の項だが、都内山の上ホテルで開いた記者会見で相当数の新聞、週刊誌、テレビの取材記者に「良くする会」が配付した結成趣意書「利用者の皆様へ」は、「JR東日本革マル問題」の歴史の中でも、画期的な重要文書だと私は考えている。

利用者の皆様へ ～私達「JRを良くする会」が目指して行くもの～

1. 利用者の方々に著しく御迷惑をお掛けする「スト権」の行使を凍結し、社会と利用者の皆様と、JR東日本、そして我々JR東日本の労働者が、話し合いにより構築して行く、民主的労働運動を皆で目指します。
2. 現在東労組が行動の支柱としている革マル思想を排除し、より民主的で公平的労働運営を皆で目指します。
3. 現在の不透明な会計状況を改変し、より透明でかつ明朗な労組会計に皆で改善致します。
4. 外部の第三者に「行動の正当性評価」を審査して頂き、内部だけでは判断できない部分においては、利用者も交えた意見交換により、適切で正当な判断の出来る「真つ当な労働組合」に皆で改革致します。
5. 利用者の方々に最大の御迷惑をお掛けする「事故」を発生させない為、安全のためであればJR東日本をも向うに回し、利用者の安全を最優先事項に行動する新時代の労組を皆で目指します。

この文書は当日記者会見に集まったかなりの数のマスコミ関係者に配られた。「良くする会」側の説明では、この“利用者の皆様へ”は「大手新聞紙上に広告掲載するため、目下数社と折衝中」とのことだったそうだが、その後大手紙への掲載はなかった。表向き伝わっている理由としては、料金面で折り合わず、資金不足の「良くする会」側が諦めたということだが、それ以上に、発足当時の「良くする会」はマスコミ側から見ていささか胡散臭く、また、鬼門である「JR東労組の内部確執」問題にうっかり巻き込まれたら大変だというような判断が働いたようだ。私としては後者のウェイトの方が高かったのではないかと考えている。・・・

私が“利用者の皆様へ”で特に重視するのは、第2項である。第2項では現在の松崎・本部派は「革マル思想」に則って組織運営していることを認め、その排除を主張している。「革マル思想」とご丁寧に傍点まで付している念の入れようだ。「良くする会」の主要メンバーはかつて松崎氏の身近にあって薫陶を受け、JR東労組の中核にいた人々である。それがマスコミに素顔を曝し、実名で大手紙に新聞広告しようとしたのだから半端な決意ではない。

ところで、私は既刊書の中で、松崎・本部派と嶋田派の対立抗争を、「しょせんJR革マル左派と右派の争い」と記述したのであったが、この“利用者の皆様へ”を入手後は、その見方を一部修正し、「少なくとも良くする会の人々は革マルではない」と考えるようになった。それは、良くする会の憲法ともいえる“利用者の皆様へ”の全文に感じられる生真面目、一生懸命さからもたらされたものである。松崎氏及びJR革マル派の最も近くにおいて東労組役員歴が長く、松崎氏及びJR革マル派の実態をつぶさに承知している者たちの手になる「文書」であるからこそ、私は良くする会の「利用者の皆様へ」文書を重視、かつ信用するのである。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”(高木書房)P.116～P.121】